

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	思想と文化
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	エコデザイン工学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書は使用しません。レジュメおよび参考資料を配布します。参考図書はPaul Tillich, "Dynamics of Faith" (Harper & Row Publishers, 1957)など。				
担当教員	宮崎 真矢				
到達目標					
○「究極的関心」としての「信仰」概念を、具体的な宗教現象・文化現象の事例の考察を通して理解できる。 ○「究極的関心」の概念を作業仮説として用いて、自分が任意に選んだ宗教的あるいは非宗教的な思想、行動、信条などの文化現象に内在する「究極的関心」を読み解き、その構造を分析できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	「究極的関心」としての「信仰」概念を、具体的な宗教現象・文化現象の事例の考察を通して理解し、充実と疑いの揺れの中で生きる人間についての洞察を深めている。		「究極的関心」としての「信仰」概念を、具体的な宗教現象・文化現象の事例の考察を通して理解できる。		「究極的関心」の概念や、これを用いた宗教現象・文化現象の分析を十分に理解できていない。
評価項目2	自分が任意に選んだ宗教的あるいは非宗教的な思想、行動、信条などの文化現象について、「究極的関心」の概念を作業仮説として用いて、詳細な分析を行うことができ、その動的構造を描き出すことに成功している。		「究極的関心」の概念を作業仮説として用いて、自分が任意に選んだ宗教的あるいは非宗教的な思想、行動、信条などの文化現象に内在する「究極的関心」を読み解き、その構造を分析できる。		自分が任意に選んだ宗教的あるいは非宗教的な思想、行動、信条などの文化現象についてのスケッチが表面的にとどまると共に、「究極的関心」の概念を適用した分析も関連性が不足している。
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 C-1 JABEE 1(2)(a)					
教育方法等					
概要	諸々の思想や文化の形成や変遷を理解する際には、それらを産み出す人間が究極的に何を問題とし何を求めているかを見ることに立ちます。授業では、「究極的関心」という概念を用いながら、キリスト教などの宗教的な思想・文化、ナショナリズムなどの非宗教的な思想・文化を、人間の究極的関心の表現として読み解くことを試みます。「究極的関心」という作業仮説を用いて、人々の物の考え方や営みの基底にある心性がどのようなものかを解釈できるようになることが、この授業のねらいです。				
授業の進め方・方法	講義 (100%)、授業形態 A (教員→学生) 70%・B (教員学生) 30%、教育手法 1 (普通の授業)・3 (探求に基づいた発見学習)				
注意点	宗教や信仰といった話題を取り扱いますが、決して特定宗教の宣伝を行ったりするものではありません。いかに目をつむろうとしても私たちの身の回りに信仰という人間の営みが存在する以上、それを頭から拒否するのではなく、それに無批判に取り込まれるのではなく、この営みを自らの知性によって考えていくための手がかりを、授業での議論を通して見つけてもらえればと考えています。なお授業計画は、学生の理解度に応じて変更する場合があります。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	現代日本の知識人の信仰理解	森岡正博『宗教なき時代を生きるために』を手がかりに、現代日本人の一般的な信仰観を理解する。 授業外学習・事後：授業内容を確認する。	
		2週	究極的な関心としての信仰	森岡の示す一般的な信仰観と対比しながら、ティリッヒの「究極的関心」としての信仰という考え方を理解する。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。事後：授業内容を確認する。	
		3週	究極的な関心としての信仰—ナショナリズムの場合	「究極的関心」の概念をナショナリズムの例を通して理解する。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。事後：授業内容を確認する。	
		4週	究極的な関心としての信仰—旧約聖書の場合	「究極的関心」の概念を旧約聖書の宗教の例を通して理解する。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。事後：授業内容を確認する。	
		5週	人間の心理構造における信仰の位置：フロイト説との比較	フロイトの無意識説とティリッヒの考える信仰との関連と違いを考察する。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。事後：授業内容を確認する。	
		6週	人間の心理構造における信仰の位置：ユング説との比較	ユングの無意識説とティリッヒの考える信仰との関連と違いを考察する。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。事後：授業内容を確認する。	

	7週	人間の心理構造における信仰の位置	人格の全体の働き、中心の働き、脱自といった信仰の特性を理解する。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。事後：授業内容を確認する。
	8週	信仰の源：非存在の脅威と生への欲望	非存在の脅威にさらされる人間の実存の中に究極的関心を生み出す原動力があるとするティリッヒの主張を考察する。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。事後：授業内容を確認する。
2ndQ	9週	信仰の源：「究極」との出会い、脱自、偶像信仰	非存在の脅威や生への欲望という人間的基盤の上で「究極的関心・関わり」がどのように生じ、どのように変容するかを考察する。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。事後：授業内容を確認する。
	10週	信仰の対象：聖なるもの	信仰の対象が創造的・破壊的、神的・魔的の両面性を持つことを、宗教史の材料に照らして理解する。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。事後：授業内容を確認する。
	11週	信仰の対象：聖なるもの	宗教の歴史の変遷を魔的なものと神的なものとの闘争史という観点から理解する。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。事後：授業内容を確認する。
	12週	信仰と疑い	「究極的関心」としての信仰に潜む「疑い」「冒険」「勇気」の要素について理解する。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。事後：授業内容を確認する。
	13週	信仰の動態	これまで考察した「究極的関心」としての信仰の諸構成要素の理解をふまえ、信仰の動態構造の特質を考察する。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。事後：授業内容を確認する。
	14週	事例分析：イエスの究極的関心	田川建三『イエスという男』を手がかりに、新約聖書に登場するイエスの活動の特徴を理解する。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。事後：授業内容を確認する。
	15週	事例分析：イエスの究極的関心	イエスの活動を「究極的関心」という作業仮説を用いて解釈する。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。事後：授業内容を確認する。
	16週	期末レポートの返却、講評	返却された期末レポートおよびその講評を通して、自らが行った分析を顧みる。

評価割合

	レポート	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	環境社会学
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	エコデザイン工学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材					
担当教員	高松 さおり				
到達目標					
①環境問題の歴史を俯瞰し、環境問題が起こる社会的背景を理解、説明できる。 ②これまでの環境問題に対する法の役割について理解できる。 ③リスクガバナンスの概念を理解できる。 ④持続可能な社会構築の必要性と、そのための社会システムのあり方について理解できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	環境問題の歴史を俯瞰し、環境問題が起こる社会的背景を理解・説明し、評価できる。		環境問題の歴史を俯瞰し、環境問題が起こる社会的背景を理解、説明できる。		環境問題の歴史を俯瞰し、環境問題が起こる社会的背景を理解、説明できない。
評価項目2	これまでの環境問題に対する法の役割について理解、説明できる。		これまでの環境問題に対する法の役割について理解できる。		これまでの環境問題に対する法の役割について理解できない。
評価項目3	リスクガバナンスの概念を理解・説明できる。		リスクガバナンスの概念を理解できる。		リスクガバナンスの概念を理解できない。
評価項目4	持続可能な社会構築の必要性と、そのための社会システムのあり方について理解・説明できる。		持続可能な社会構築の必要性と、そのための社会システムのあり方について理解できる。		持続可能な社会構築の必要性と、そのための社会システムのあり方について理解できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C-2 JABEE 1(2)(b)					
教育方法等					
概要	環境とは、人間活動と相互作用を及ぼすものであることから、その意味では科学技術のみでは理解できず、社会学的な視点が必要である。その観点から、まず人類の歴史における環境問題を捉え、次に日本において社会問題となった公害からはじめて大気、水環境問題について学ぶ。さらに、現在における廃棄物などの問題でリスクガバナンス等の新たなコンセプトが提唱されており、21世紀の循環型社会構築のための公共政策についても学ぶ。これらについて、より理解をふかめるために、いくつかの課題についてレポートを課す。				
授業の進め方・方法	講義 A (100%) 授業手法1				
注意点	授業計画は、学生の理解度に応じて変更する場合がある。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	本授業の目的を理解し、説明できる。	
		2週	地球の誕生と地球環境の創生	環境問題を理解するため、地球の誕生からどのような経緯を経て現在の地球環境に至っているかを理解し、説明できる。	
		3週	古代における環境問題	古代文明から産業革命までの間にどのような環境問題が起こったか理解し、説明できる。	
		4週	日本の環境問題 (1)	日本の江戸時代から昭和初期に起こった環境問題 (鉱害) の社会的背景を理解し、説明できる。	
		5週	日本の環境問題 (2)	高度経済成長期に起こった四大公害が起こった社会的背景と政府、企業の対応について理解し、説明できる。	
		6週	地球環境問題 (1)	酸性雨、オゾン層破壊などが社会に及ぼす影響について理解し、説明できる。	
		7週	地球環境問題 (2)	生物多様性の喪失が社会に及ぼす影響について理解し、説明できる。	
		8週	環境問題と経済学	環境問題と経済学との関係について理解し、説明できる。	
	2ndQ	9週	リスクガバナンス (1)	リスクの概念について理解できる。	
		10週	リスクガバナンス (2)	リスクガバナンスの考え方を理解し、説明できる。	
		11週	持続可能な社会を支える法の役割 (1)	持続可能な社会を支えるための法律にどのようなものがあるのか理解できる。	
		12週	持続可能な社会を支える法の役割 (2)	持続可能な社会を支えるための法律にどのようなものがあるのか理解できる。	
		13週	持続可能な社会システムと環境政策の在り方 (1)	持続可能な社会を構築するためには、どのような社会システムを考える必要があるのか理解できる。	
		14週	持続可能な社会システムと環境政策の在り方 (2)	持続可能な社会を構築するためには、どのような社会システムを考える必要があるのか理解できる。	
		15週	社会の中の技術、社会のための技術	社会的問題の解決に貢献する科学技術とはどのようなものか、どのように科学技術を社会的問題の解決に役立てていくのかを理解できる。	
		16週	アンケート		

評価割合					
	課題レポート	授業毎提出物	姿勢・態度	その他	合計
総合評価割合	50	45	5	0	100
基礎的能力	20	25	5	0	50
専門的能力	15	20	0	0	35
分野横断的能力	15	0	0	0	15